

二〇二五年度

札幌大谷大学短期大学部 保育科

一般選抜・特待生試験

国語

注意事項

- 1 試験開始の指示があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
- 2 問題冊子は七ページあります。
- 3 試験中に印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて試験監督者に知らせてください。

問題一、次の文章を読んで、後の問に答えなさい（文章は設問のために、一部改変している）。

自分がこの世に存在することに気付き、自分のとった行動や考えを客観的に省みる^①自己意識（self-awareness）が、私たちには備わっています。こうした自己意識は、「自分」として、主体的に自律して生きていくためには必要なことです。また、他の人たちがいったいどのようなことを考えているのかという、他人の心の内側を考えるためには、まずは自己を内省する自己意識は不可欠だと指摘されています（木下、2001）。

こうした自己についての認識に関する研究が盛んになったきっかけには、ギャラップ（Gallup, 1970）の研究があります。ギャラップは、チンパンジーに自己を認知する能力があることを実証しようとしました。彼が行った「マークテスト」と称する鏡を用いた研究が、非常に有名です。

どんな研究かと言いますと、チンパンジーの顔に、気付かれないようにそっと赤色の染料でマークを付けておきます。そして、後で鏡を見せて、どんな反応を示すのかを観察するというわけです。

もしも、鏡に映っている顔を「A」だと認識することができれば、鏡ではなく自分自身の顔をぬぐって、赤色のマークを取ろうとするでしょう。

逆に、鏡の中の顔が「A」だとわからなければ、そうしたそぶりは示さず、鏡の中の顔をおもしろそうに見たり、鏡にうつっている顔を触ったりするのではないかと予測したわけです。

簡単なテストではありますが、最初にこの論文を読んだときには、「なるほどっ」とそのアイデアに感嘆しました。（a）、これと同様のやり方を人間を対象に用いたのは、アムステルダム（Amsterdam, 1972）という人でした。彼は、ほぼ同時期に偶然、人間を対象として同じようなアイデアを試したそうです。

アムステルダムの研究では、3〜24カ月の乳児を対象にして、母親が乳児の鼻に口紅（ルージュ）を付けてから、鏡を見せて検討しました。その結果、21カ月以降の6割の子どもが、自分の鼻を拭う、といった行動を示しました。鏡の中の顔を自分の顔だと理解することが、すでに2歳近くでできることが明らかになったのです。



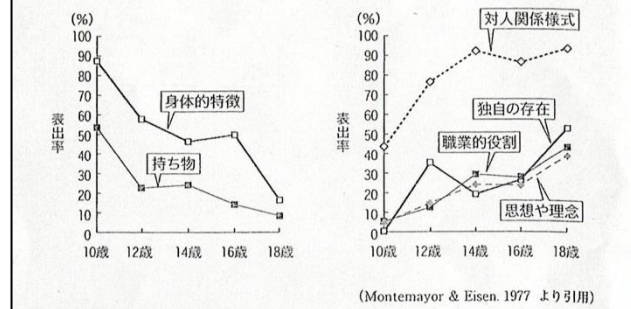
鏡の中の顔と自分の顔を同じだと認識できるようになることは、自分の動きと鏡の中の像の動きが随伴している、ということを手掛かりに考察できることを示します。口をゆがませれば、鏡の中の像も口をゆがめます。髪をクシヤクシヤとかきむしれば、鏡の中の像も同じことをすることに、ある日あるときに気が付き、「これは自分の顔なんだ」と判断できるようになると考えられるのです。

鏡による自己の認識は、生後24カ月までに可能になることがわかっていますが、成長とともに、^②自分を時間的なつながりを持つ存在としても理解できるようになることがわかっています。

（b）、図2に見られるように、ビデオでサツエイした映像を後で提示した場合に、数分前に自分の額にマークが付いていたことを録画から悟り、自分の額のマークを取ろうとする行為が、4歳以降になると見られることが明らかになっています（Povinelli et al., 1996）。

（c）、家庭のホームビデオを見ているときに、「あー、これ僕だ！わっ、口のまわりにソフトクリームが付いているよ。気がつかなかった」と言って自分の口を拭う、といったように、自分を振り返って今の自分に つなげることができるのは、4歳ごろというわけです。

図3 加齢にともなう自己意識の変化



③ 自己意識の変化については、モントメイヤーら (Montemayor & Eisen, 1977) の研究が興味深い研究です。「私は誰ですか?」といった 20 答法と呼ばれる文章完成法が用いられました。その結果、図 3 に示されるように、小さいときは、「自分は大きい」とか「背が高い」「カバンを持っている」などの身体的な特徴や持ち物などを、自己を表すものとして書いていました。

これに対して、児童期には、自分のことを尋ねられると、「友達がいっぱいいい」「おもしろい友達がいる」「すぐに仲よくなれる」など、対人関係にかかわる特徴や能力を表現するようになることがわかりました。さらに青年期になると、「自分は明るい」といった自分の性格や、人生についての思い、考え方などを語ろうとすることが多くなります。

9 歳以上になると、過去のことについては、単に「……だった」だけではなく、「……だった。そして、悲しい気持ちになった」といった気持ちや感情を加えて記述するようになります。

さらには、「弟が生まれたから、もう前のように甘えてはいけない」といった、過去のある点までと、これからは違うんだぞ、といった時間的な流れも汲めるようになります。

未来に対しても、現状を自分なりにとらえて、「今は、逆上^{さか}がりができない。でも、がんばる」といったこれからの努力を述べたりするようになります。

自尊心は、「自己についての全体的な評価」と考えられています。同じような意味として、自己価値 (self-worth) や自己像 (self-image) とも言います。

ローゼンバーグ (Rosenberg, 1965) は、自尊感情を「自己イメージの中枢的概念で、特定の一つの対象、すなわち、自己に対する【B】または否定的態度」と定義しました。そして、一般的な意味とは違って、【B】な感情だけではなく、劣等感、不満などの否定的な感情も含むと考えています。つまり、自分のよいところだけを取り上げているのではなく、自分の長所も欠点も含めた、自分について持っている評価ということになります。そのうえで、自尊心について、二つの意味を指摘しています。

一つは、自分を「非常によい (very good)」と考える意味と、もう一つは、「④」れでよい (good enough)」と考える意味です。

前者は、他人と比較し、⑤ 相対的に優れていることが背景にあります。後者は⑥ 軽蔑する自分に陥^{おと}らなければ、それでよいのだといった意味です。つまり、人は完全でなくてもよい、といった意味合いを持ちます。

人はつい、理想的なよい自分を求めすぎてしまいがちですが、そういう状態ですと自尊心を低下させることにつながりやすくなります。(d)、「不得意なところもあるし、結構いけるところもあるなあ。まあ、こんなくらいでいいんだ」というバランスのある感覚を持つことは、自尊心の⑦ イジに大切なことです。いわば、「まあ、いいや」「こんなもんでしよう」といったバランス感覚が大事だということです。

⑧ こうしたバランス感覚は、周りからのフィードバックや評価に影響されることが多いですから、9 歳、10 歳ごろは、あまり⑨ カンペキを求めず、悪いところもよいところもひっくるめて、おおらかに認めてやることが重要です。

自尊心の研究には、実に多くの研究がありますが、ここでは発達的な視点から明らかにになっている研究を取り上げましょう。

ハーター (Harter, 1982) は、子どもたちにとって重要な領域として、4 つの側面をあげています。すなわち、「認知的コンピテンス」(コンピテンスは潜在的能力のこと)「社会的コンピテンス」「身体的コンピテンス」「全体的自己価値」です。

もう少し具体的に説明しますと、「認知的コンピテンス」には、学業、記憶、読みの理解などが含まれます。勉強ができる、記憶がよい、スラスラ読めるといった、自分の能力に対する評価です。「社会的コンピテンス」は、友達が多い、人気がある、などの対人関係にかかわる領域です。「身体的コンピテンス」は、スポーツや身体にかかわる能力について、「全体的自己価値」は、自分についての総合的な満足にかかわる内容です。

この4つの領域について、第3学年から第9学年（およそ9歳から15歳）を対象に自尊心について調べられました。その結果、9歳以上の子どもたちは、すでに自分のコンピテンスを、領域別にそれぞれ区別していることが明らかになりました。

つまり、9、10歳になれば、「自分は、勉強はからきしだめだけど、運動は得意だ」といったように、それぞれの領域を分けて、得意や不得意についての自分の考えを持つようになるというわけです。

（e）、^⑦大人の安易な評価や励ましは、逆に子どもの不信感をつのらせることとなります。子ども自身が、これはちょっと不得手だなと思っていることに、「すごいねー、できてるよ」と安易に声かけをしても、調子にのるというよりは、逆に声をかけた大人に対して、「いいかげんな人だ」といった不信感を持つというわけです。

（渡辺弥生『子どもの「10歳の壁」とは何か？乗り越えるための発達心理学』光文社新書）

問一 傍線(ア)～(キ)について、カタカナは漢字に直し、漢字は読みを答えなさい。

問二 (a)～(e)に入る接続詞を次から選び答えなさい。

・たとえば ・つまり ・したがって ・しかし ・そして

問三 傍線①「自己意識」が必要な二つの理由を本文の言葉を使って六五字以内で説明しなさい。また、「自己意識」と同じ意味の言葉を本文から探し、九字で書き抜きなさい。

問四 【A】に入る言葉を本文から探し、四字で書き抜きなさい。

問五 傍線②「自分を時間的なつながりを持つ存在としても理解できるようになる」とはどのようなことか。わかりやすく言い換えているところを本文から探し、二三字で書き抜きなさい。

問六 傍線③「自己意識の変化」について本文の言葉を使って一〇〇字以内で説明しなさい。（ただし、「小さいとき」「児童期」「青年期」これらの言葉を必ず使うこと）

問七 【B】に入る言葉を漢字三文字で答えなさい。

問八 傍線④「これでよい (good enough)」と考える」とあるが、これはどのような意味か。わかりやすく言い換えているところを本文より探し、

一字で書き抜きなさい。また、なぜそのように考えることが必要なのか。本文の言葉を使って六〇字で説明しなさい。

問九 傍線⑤「相対的」の対義語を漢字で答えなさい。

問十 傍線⑥「こうしたバランス感覚」とは、どのようなバランス感覚のことか。本文から探し書き抜きなさい。（バランス感覚に続く形で答えなさい。）

問十一 傍線⑦「大人の安易な評価や励まし」が逆に子どもの不信感を募らせるようになるのはなぜか。本文の言葉を使って五〇字以内で説明しなさい。

問題二、次の文章を読んで、後の問に答えなさい（文章は設問のために、一部改変している）。

角館の町は、戦災を免れたこともあったのだろう、武家屋敷の庭は^{注1}天高く生い茂り、それが道の両側から静かに迫ってくるところは、町なかでありながら森林の気配を思わせた。同じ道の北の外れに、^{注2}瀟洒な美術館がある。建物自体は比較的新しいが、もともとは武家屋敷、その跡地に旧制角館中学校が建てられ、今の美術館は更にまたその跡に建っている。大きく取られた前庭に、この町のそれらしく、やはり大木が林立して清々しい気配を漂わせているのは、武家屋敷時代からの樹木が残っているせいもあるらしい。本館に続く小径の隣には、敷地全体の雰囲気^{こみち}の元締めのような木立があり、下草にはクマザサが生い茂っている。そしてまた別の、今はもうあるかないかのような、^{注3}逍遙のための小径が見て取れた。①「こうい^{すがすが}うとき、私はいつも誘われるようにして入っていつてしまう。すると、ほぼ中央に大きな岩を見つけた。何だろう、と近づく。岩には表面の一角に、わりに新しいプレートが入っており、「偲^{しの}ぶ碑」と銘打つてある。読むと、

昭和三年 若きわれら百名はここに入学した

校庭に景観を求める矢島鐘二校長のもと

雪道に巨岩を運び雨の日に植樹することに力を合わせた

以来茫々として七十年

ここに碑を彫り往時を偲ぶものである

平成七年五月

旧制角館中学校

第四期卒業生一同

この美術館は、私が行ったとき館内に客はおらず、きつとソングにも大変な苦労があるのに違いなと思われた。万が一にもこの後にまた別の施設なりの構想が持ち上がったら、いや、そうならないまでも、もう、この、平地に突然転がされているような岩の由来を知る者は早晩いなくなってしまうだろう（山道などを歩いていて、ここにどうしてこんなものが、とその謂われが知りたくなるような岩に出会うことはよくある）。その焦燥が、この碑を刻もうとするのドウキだったに違いない。短い名文である。年代からして、ほとんどが戦争に行っているだろう、そして帰ってこれなかった方々も多かっただろう。その中でこの歳まで人生を刻んでこられた方というのは更に、数えるほどになっているのに違いない。その中に一人、名作家がいりしたのだ。

気持ちが入って入ってゆきそうな木々や岩に出会おうと、思わず手を当てて、何か語ってくれるのを待つことが、私の習性になっているけれど、この岩は、こうして自らの由来を語ってゆく。^{注3}地霊と^{注4}言霊が、思わぬ形で互いに寄り添ってゆく。

角館を發ち、雫石、小岩井、盛岡、花巻を経て、東京へ向かう。

東京は、古本屋も多いし（いくらインターネットで古本も収集できるといっても、思いがけない本との出会いは、やはり書棚に手を伸ばすことから始まる）、入る情報量も多いが、生命力の不必要に削られるような刺激もまた多く、数日間の滞在中、途中で逃げるように日光の植物園へ行った。実は会いたい木がある、という目的のためだったが、これはまた別の話。

台風が近づいているというのはいきなり聞いた。さすがに空模様は怪しく、園内にほとんどヒトカゲもない。深山の気配がたちこめた中、思索的な霧囲気の木々に囲まれて、上がり下がりのある小径を歩いていると、心と体が細胞単位で飲んでいるのが分かる。目には見えない飛沫が沢から立ち上がってきて、^②砂漠で水を与えられた旅人のよう。天気はそれまでなんとか持っていたのだが、さすがに途中でさっとにわか雨に遇う。ひどい降りではなく、むしろ辺りの気配をますます深めるため、そういう必要があつて誰かが、何かが呼んだ、そういう雨だった。それから、広い場所に出ると、向こうの山々からため息のような霧が湧き上がり始めていた。旧暦にしても秋には少し早い時期だったが、

村雨の 霧もまだ干ぬ真木の葉に 霧立ちのぼる 秋の夕暮れ

百人一首で有名なこの歌と、宮澤賢治の、

雨すぎてたそがれとなり
森はたゞ海とけぶるを

という詩句を殆ど同時に思い出した。

寂蓮法師は十二世紀の終わり頃に活躍した人であり、賢治とは七百年程の隔たりがあるが、^③時代を超えて、皮膚は同じ感慨を訴えている。皮膚一

枚通して内側と外側が少しずつ交流を始めるような、そういう気配。

肌身が経験する、圧倒的なリアリティの中へ参加している、という感覚は、私にいつでも、未だかつて語られたことのない言葉を使いたい、と、強く欲求させる。そうでなくてどうしてこの、常に新しくあり続ける「今、この瞬間、この場所で」というリアリティが表現できるだろう、と。

だが、こういう、体験と不可分の（つまり、机上でひねり出したのではない）言葉は世の中にはすでに無数に生まれていて、個々人の体験が、ただそれに追いついていかないだけなのかも知れない。普遍的な体験は、きつと、私たち個人を通して世の中に滲むように現れ、そして露のように消えてゆく。僅かにそれを留め得た言葉だけが、作者の寿命遙かに生き延びて、人の記憶に刷り込まれてゆく。

雨すぎてたそがれとなり
森はたゞ海とけぶるを

こういう情景を、都会では経験できない、^④だから最近の子は可哀想、とは思わない。陽射しで熱せられたビルの谷間のアスファルトが、一瞬のにわか雨の後、やはりため息のように吐き出すぼわぼわとした生温かい蒸気、そういうものに、繰り返す馴染みの季節感を覚える子どもも少なくはあまりない。要は、大気移動があつて、それに生体としての体が覚える感慨。世界に感官が開かれてある、そのことを味わう力。

内なる自然、とよく言うけれど、もしその自然がその時代の人為的な影響で荒れ果てていたら、それこそがその時代の「自然」なのだ。カラスがこういう環境下でこのように生きていること、そのことがまさしく「自然」であるように。外部の自然が変化してゆくとき、私たちの「内なる自然」もそれとパラレルに変化して行くのは当然のことだ。それが「自然」である以上。

環境問題は単なる外部の問題ではない。私たちの内なる自然の風景も、そこで取り沙汰されているのだ。地霊と言霊が、相関しあっているように、或いはもっと^⑤シニミツな連関が息づいているのかも知れない。「ぐるりのこと」は中心へ吸収され、充実した中心はぐるりへ^⑥カンゲンされてゆく。^⑤私はmarshという言葉が好きだ。陸地と河川を分ける境界にある、湿原、沼地のようなところ。ただ、marshという言葉が出てくる小説の雰囲気が好きなのかも知れない。なぜなら私にはmarshという言葉に特定の体験の確固たる裏付けはないはずなのだ。それが過去に読んだ小説の断片なのか、それとも昔、自分が（忘れているだけで）リアルに体験したことなのか、判然としなくなっている。それに、英国の知人が昔語りした子どもの頃の体験なのか、それとも繰り返し見た夢のせいか、と考えてゆくともう、本当に何が何だか分からなくなる。それらは全て曖昧になっているのに、ただ、marshという言葉の周囲に立ち上がる、水気を帯びた空気や丈高い草々、生活する鳥や獣たち、そして昆虫、そういった多様ないくつもの生命が、一斉に風に吹かれていく感じ、そういうものだけのだけははつきりした気配を伴って私の脳裏をよぎるのだ。言葉というものは本当に不思議だ。口にしただけで何かの霊が降りてくる、魔力を持っている、と、昔の人が考えたのも無理はない。それはある特定の神秘的な場所が、霊力のある地とされてきたのと同じように。

現在、地上のあらゆる所にブルドーザーが入り、土地は開発の名の下に蹂躪され、その地霊がほとんど力を失ってきたのと同じように、空しく使回された言葉たちが急速に力を失ってゆきつつある。地霊も言霊も、およそ霊力というような類の力が、急速に薄れ、陰影のない、薄っぺらの何かに代わられて行きつつある。恐ろしいことだが、人間もそうだ。環境問題は、人間の内側と外側で、同時進行している「自然」の問題なのだ。

- 注1 瀟洒 すつきりとしてあかぬけたさま。
注2 逍遙 そこここをぶらぶらと歩くこと。 散歩。
注3 地霊 大地に宿るとされる霊的な存在。
注4 言霊 言葉に宿っている不思議な靈感。 古代、その力が働いて言葉通りの事象がもたらされると信じられた。

問一 傍線(ア)〱(オ)のカタカナを漢字に直しなさい。

問二 傍線①「こういうとき」とあるが、どういうときか。文中の語句を使って答えなさい。

問三 傍線②「砂漠で水を与えられた旅人のよう」とあるが、このような表現技法を何というか。漢字で正しく答えなさい。
また、この表現技法を使った部分を、他にも一か所探して書き抜きなさい。

問四 傍線③「時代を超えて、皮膚は同じ感慨を訴えている」とあるが、どのようなものか。文中から三五字以内で二か所探して、それぞれの最初と最後の五字を書き抜きなさい。

問五 傍線④「だから最近の子は可哀想、とは思わない」のはなぜか。著者の考えを七〇字以内で説明しなさい。

問六 傍線⑤「私は marsh という言葉が好きだ」とあるが、著者はこの「marsh」という言葉からどういうイメージを覚えるのか。六〇字以内で説明しなさい。